

安心・安全、希望の京都

京都セーフコミュニティ シンポジウム



2007.9.23

主催：京都府 共催：亀岡市

挨拶

✚ 山田 啓二 京都府知事

✚ 栗山 正隆 亀岡市長

基調講演

✚ What is a Safe Community and How do we get there

Lief Svanstrom スウェーデン王立カロリンスカ医科大学教授、
WHOセーフコミュニティ協働センター代表

✚ Key issues and challenges on Safe Community in Korea

Nom-Soo Park 韓国アジヨ大学医学部
外傷予防及び地域安全向上センター 准教授

報告講演

✚ 社会調査からみたセーフコミュニティ活動の課題

～安心安全と健康をつなぐ社会的結びつき～

中谷友樹 立命館大学文学部人文学科地理学専攻准教授

✚ 篠町自治会におけるセーフコミュニティの活動について

井内邦典 亀岡市篠町自治会長



Leif Svanstrom (レイフ スヴァンストローム)

Welcome message

Welcome to the Safety Promotion Symposium on 23 September! The Community Safety Program of the World Health Organization was established in 1989 and has substantially increased its activities during the past one and a half decade. Research activities have increased as well as the development of a network of Safe Community programs around the world.

We are happy now to see the Safety Promotion Symposium hosted by Kyoto prefecture and wish you a fruitful meeting and a productive future.

See you in Kyoto September 2007!

Leif Svanstrom

Professor

Karolinska Institutet

Chairman, WHO CC

.....

京都セーフコミュニティシンポジウムによろこそ！

WHOセーフコミュニティは1989年に創設され、その後15年間でその活動は、大幅に増加したところです。

調査・研究についても、世界中のセーフコミュニティネットワークの発展と同様に増加したところであります。

京都府主催のこのシンポジウムで皆さんとお会いできることは大変喜ばしいことであり、このシンポジウムが皆さんに実りある出会いと豊かな未来に寄与することを祈念しております。

2007年秋、京都でお会いしましょう。

レイフ スヴァンストローム

スウェーデン王立カロリンスカ医科大学教授

WHOセーフコミュニティ協働センター代表



Nam-Soo Park (パク ナムスー)

First of all, I would like to congratulate Kameoka city on hosting the safe community symposium on 23th of September, 2007 and has been successfully submitted the application report for designation as a safe community.

It is my privilege and pleasure to be invited to the symposium. I hope that this symposium will be a wondrous and fruitful one and would contribute significantly in bringing all together to share our experience and promoting safe community movement in Kameoca as well as in Kyoto, Japan.

I am looking forward to meeting all of you at the symposium.

Sincerely

Nam-Soo Park

Assistant Professor,

Center for Injury Prevention and Community Safety Promotion

Ajou University School of medicine, Suwon, Korea

Coordinator, Asian Safe Community Network

.....

はじめに、2007年9月23日、亀岡市において、セーフコミュニティシンポジウムが開催されますこと、またセーフコミュニティ認証申請がなされたことをお祝い申し上げます。

この度、このシンポジウムにご招待いただきましたことを心より光栄に感じております。

私は、このシンポジウムが盛況かつ実りあるものになることを願いますとともに、私たちの経験を皆さんとともに分かち合い、亀岡市そして京都府におけるセーフコミュニティの取組の推進に寄与することを願っております。

皆さんとシンポジウムでお会いできることを楽しみにしております。

パク ナムスー

アジョ大学医学部 外傷予防及び地域安全向上センター 准教授

アジアセーフコミュニティネットワーク コーディネータ



中谷友樹

立命館大学文学部人文学科地理学専攻
立命館大学歴史都市防災研究センター 准教授

報告講演：社会調査からみたセーフコミュニティ活動の課題
～安心安全と健康をつなぐ社会的結びつき～

講演概要：2007年2月に実施された亀岡市全戸アンケート調査の結果を集約し、セーフコミュニティ活動の可能性と課題を抽出する。
とりわけ、安心安全をめぐる不安、外傷経験、各種の健康指標の実態を人と人のつながりを軸として検討する。

略歴：東京都立大学大学院理学研究科修了 理学博士
立命館大学文学部専任講師をへて2000年より現職
2006年より立命館大学歴史都市防災研究センター兼任



井内邦典

亀岡市篠町自治会長、亀岡市自治会連合会長

報告講演：篠町自治会におけるセーフコミュニティの活動について

講演概要：2006年亀岡市がセーフコミュニティに取り組むことを決めたことに伴い、篠町をモデル地区として、セーフコミュニティを進めるための仕組みづくりを行い、その経験を活かし、市域に広めることとなった。
従来からの安全・安心なまちづくりの取組、そしてモデル地区として取り組んできた活動を報告

略歴：篠町は亀岡市で人口約1万8千人、約6千世帯と亀岡市で最も大きい自治会である。2004年に篠町自治会長に就任後、まちづくり推進会を設置し、ふれあい農園活動、環境美化運動、里山整備、歴史文化財の活用など、地域の活性化、住民間の親睦・交流を促進し、毎年アクションプランを策定することにより、住民が力を合わせて「にぎわいのある篠町」づくりに取り組んでいる。

- ・2007.2 篠町自主防災会が知事表彰を受賞
- ・2007.3 亀岡市熟年パワーまちづくり推進団体として第1号認定
- ・2007.8 「めがね橋ふれあい会」が国土交通省、道路協会から表彰

セーフコミュニティ

事故やけがは偶然の結果ではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により、府民の全てが安心して安全に暮らすことができるまちづくりを進めるものです。

これはWHO（世界保健機関）が「世界中の人を健康に」という取組を進めるなかで、日々の生活において「安全」が健康に大きな影響をあたえることに着目したのが始まりです。

そこで、地域の皆さんが協働で安全な環境づくりに取り組んでいたスウェーデンの小さなまちの取組をモデルとして、地域のだれもがいつまでも健康で幸せに暮らせるまちをつくらう！という取組が「セーフコミュニティ」です。

既に取り組まれている高齢者の転倒を防止するための「健康づくり体操」、市民の皆さんの手で子どもを守る「こども110番のいえ」や「地域安全見守り隊」、地域を災害から守る「自主防災組織活動」などは、セーフコミュニティにつながる取組です。

■ 亀岡市では、現在、日本初の「セーフコミュニティ」の認証を目指した取組が展開されています。

よく聞く「安全なまちづくり」とどうちがうの？

地域ぐるみの安全づくりの取組みです

地域のあらゆる人や組織（住民・行政・学校・警察・消防署・住民組織など）が、協働で課題を見つけ、まちづくりに取り組む仕組みをつくりまします。

科学的なデータを活用します

けがや事故などあらゆるデータを活用し、取組による影響や成果を科学的な視点から確認し、取組の改善につなげまします。

何に対する安心・安全なの？

✚ セーフコミュニティでは、事故によるけが、犯罪・暴力、自殺など、私たちの安心して安全な暮らしを脅かす全ての事象を対象とします。

事故	犯罪・暴力	その他
交通事故、転落・転倒、溺水、不慮の窒息、火災、不慮の中毒	他殺・傷害、薬物中毒、児童虐待、ドメスティックバイオレンス、高齢者虐待	自殺、外傷後ストレス障害（PTSD）、災害 など

どういう効果が期待できるの？

地域の再生

セーフコミュニティは人と人とお互いに信頼しあえる地域を再生し、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるものです。

地域のイメージアップ

心の通う安心・安全なまちづくりが進み、地域のイメージアップが図られます。

事故などによるけがの減少

セーフコミュニティの先進地であるスウェーデンなどでは、この取組を進めることにより、事故によるけがが約30%も減少しています。

医療費等の削減

事故によるけがの減少により、医療費や介護費用を削減することができます。そしてその予算を、子育て支援など他の事業に活用することが可能になります。

WHO セーフコミュニティ協働センターによる認証

セーフコミュニティの認証基準（6つの指標）

1. より安全な地域づくりを目指し、分野や領域の垣根を越えて協働で取り組む組織がある。
2. 全ての性別・年齢・環境・状況を対象に、長期にわたる継続的なプログラムがある。
3. 危険度の高い集団(年齢層や地域など)と環境に焦点を当てたプログラム及び弱者とされる人たちを対象にしたプログラムがある。
4. 傷害の頻度と原因を記録するプログラムがある。
5. プログラム、取り組みのプロセス、取り組みの結果をアセスメントするための評価基準がある
6. 国内・国際的な「セーフコミュニティ」のネットワークへ継続的に参加する

- ✚ この指標をクリアしたコミュニティは、「WHO 地域の安全向上のための協働センター」（スウェーデン）による審査の後、『セーフコミュニティ』として認証されます。
- ✚ 2007年8月末現在、世界中で117のコミュニティが「セーフコミュニティ」として認証されています。
- ✚ 日本では、まだ『セーフコミュニティ』として認証された市町村はありません。



問い合わせ先

京都府安心・安全まちづくり推進室 TEL075-414-5079

HPアドレス <http://www.pref.kyoto.jp/safecom/>